



支え合い、つながり合う

校長 浅野 博一

令和6年度のつばさ小学校教育活動も、総仕上げの時期となりました。第6学年は、授業日数【15日】。第1～5学年は、【17日】となります。振り返れば、様々な課題に、つばさ小職員がチームとなって乗り越え、つばさ小教育活動の水準向上に努めてまいりました。

18歳で突然、白血病に襲われ、見事、復活を成し遂げた水泳の池江璃花子選手は、『逆境からは上がっていく時には、どうしても希望の力が必要。希望が遠くに輝いているからこそ、どんなにつらくても前を向いて頑張れる。』と語っています。

つばさっ子にエールを贈ります！

冷たく暗闇の夜空も、必ず、夜が明け、暖かい朝が訪れます。

自分の周りの状況を「もう駄目」と思い込まず、最大の敵【闘う前からあきらめてしまう自分】に打ち克ち、シンガーソングライター中島みゆきさんの「ファイト！～闘え私」の曲を胸に、自分を鼓舞して、前に、そして前に突き進んでください。わたしたち職員・そして仲間たちは、必ず寄り添い、味方になっています。

さて、写真は、北区特別支援教育作品展見学の様子です。誰もが世界にひとつだけの花、それぞれの個性が、とても愛おしく感じます。

先日、高砂小学校の公開授業研究会に指導者として伺って参りました。

その際、講演会で、元文部科学省視学官・國學院大學教授 杉田 洋氏は、ご自身のお孫さんが現在、特別支援学級で学ばれていらっしゃることにふれ、今後の国の在り方について熱く語られていました。…支え合い、つながり合う社会… つばさ小を巣立った子どもたちが、希望溢れる、幸せに満ちた社会を築き上げていくには、まず、つばさ小学校教職員がロールモデルとなることが重要です。



毎年、教育委員会では、市内すべての教職員に意識調査を実施していますが、「職場に協働し合う体制があるか」との問いに対する、つばさ小職員の肯定的な回答は、市平均を大きく上回りました。

「決して担任1人に抱え込ませない」全職員の教育力を結集して臨むつばさ小の教員風土は、全国に誇れるものであると感じます。

医師会の実施するストレスチェックでは、「上司の支援」「同僚の支援」とともに全国平均のリスクから、かなり低いリスクに抑えられています。

つばさ小の子どもたちには、つばさ小の教職員がチームとして互いに力を合わせ、支え合い、つながり合っていく姿から、VUCA時代を逞しく生き抜く“人間力”を学んでいってほしいと願います。

2年前、浦和の小学校で、道徳の関東ブロック研究大会が開かれた際、当時、文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 浅見哲也 教科調査官（道徳）と久しぶりに2人で語り合う機会ができました。彼は、同じ大学の同級生です。

「自分でもなかなか考えられないようなことを純粋な気持ちで語る子どもと出会うと、大人になって失いかけていた大切なものを思い出すよ。授業をやり終えた後の達成感や敗北感、これらすべてが授業の楽しさだな。」…その時、彼が語った言葉を思い出す、子どもの素敵な考えの発表がありました。2月13日、4年生「道徳」研究授業。「思い出作ろう会」の内容を決める時、足を骨折した子が週明けから登校するのを思い出し、発言をしようとしたのに周囲が聞こうとせず涙が出そうになった時の気持ちを問われ、Aさんは「みんな、こうたさんのこと忘れてるのかな」と語りました。自分の悲しさに加え、こうたさんを想う気持ちに心が温まりました。



3月の生活目標

学校をきれいにしよう

3月の保健目標

健康生活の反省をしよう

おめでとうございます！

◆埼玉県書きぞめ中央展覧会

【特選賞】

【優良賞】

◆学校給食標語

【優秀賞】

◆食育推進に関するポスター

【優秀賞】



◆埼玉県小・中学校等児童生徒美術展

【入選】

【佳作】

◆北区児童生徒美術展

【入選】



◆「ごはん・お米とわたし」作文コンクール

【優秀賞】

◆平和図画ポスターコンクール

【奨励賞】

【最優秀賞】

◆歯・口の健康に関する標語コンクール

【入賞】